

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和元年度第1回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和元年6月21日(金) 至 12時00分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：横山委員長、岸本副委員長、伊庭委員、飯田委員、石本委員、鈴木委員、小寺委員、湯浅委員、山本委員、永野委員 事務局：川那邊教育長 生涯学習課 相井課長、矢野係長、奥田主任 老上学区まちづくり協議会 日下部事務局長 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. 教育長挨拶

2. 自己紹介

3. 議事

1) 社会教育委員の職務および生涯学習課所管事業の説明

【事務局】

《社会教育委員の職務説明》

【委員長】

意見を述べることができる、助言することができるという、大変重い仕事であることを十分に理解して活動していきたい。

【事務局】

《令和元年度 生涯学習事業について説明》

青少年育成対策費が子ども未来部へ所管替え

成人式と青年海外協力隊派遣者との交流事業は生涯学習課に残る

その他の当課所管の業務は、平成30年と大きな変更はなし。

＜社会教育促進事業補助金について＞

平成30年度第1回社会教育委員会議において、当該補助金見直しの必要性について御意見あり。令和元年度は、予算通りの執行予定。次年度に向け、委員の意見を伺う

【委員長】

昨年度、社会教育促進事業補助金について問題提起している。精査もなく補助金を交付している状況に、批判が出ている。補助金を出すのであれば、公開審査し、条件に見合ったところに交付する方式を導入すべきではないか。

【L委員】

公募の中から補助金の対象を選んでいくのは良い方法だと思う。条件を提示される

ことで、団体にとって今後の活動をどう維持していくかを考えるよいきっかけとなると思う。

【J委員】

補助金の制度や過去からの状況がわからないが、低額であってもコミュニティ事業団がやっているような育成のための補助金があってもいいと思う。

【C委員】

公募とすることで、この補助金事業への理解が進むいい契機となると思う。団体にとっても、補助金の公募は追い風になると思う。

【G委員】

補助金が理由のある使い方をされているのであればいい。他団体・協会にも申請を求めれば活性化していくのではないかなと思う。

【M委員】

お金のないところに人は集まらない、会費がいるなら入会しないという社会の動きがある反面、補助を得るためにそれなりの努力をし、補助金に見合った活動を行う姿勢は非常に重要なことだと思う。

【L委員】

今年度の補助金は全部合わせても10万円程度で、交付団体を増やしても1万円程度。社会教育に力を入れるという意味で、拡大していただけたらと思う。

【P委員】

総額も低額な中で、評価に値しない額ではないかなと思う。補助金は活動継続のための視点もあり、交付しっぱなしではなく確認する姿勢が必要。実際に現場を確認するなど、報告書提出で終わりではいけないと考える。

【S委員】

新たな事業に対して補助し、額は10万、1件に絞れば、イノベーションが起きるのではないかなと思う。

【副委員長】

競争性を持たせるための魅力は、この金額では難しい。金額から考えれば、単発的に絞って競争性を持たせるようにしないと、金額に合わせた事業をつくってしまう部分もある。その辺も含めて見直しが必要ではないかなと思う。

【委員長】

生涯学習課所管の補助金でなくてもいいと考える。社会教育関係団体枠として10万円なら10万円確保し、公募で補助を出す。いい事業であれば、条件も100%であってもいいと思う。地域全体で、社会教育を行っていくという意味で、予算措置の観点からも、全体のスキームの中で見ていく必要がある。本当にこれから発展していくところを支援するような見直しをお願いしたいと思う。

2) モデル地区（パイロットモデルの取組）

【事務局】

《パイロットモデル説明》

■パイロットモデルを実施する上での行政の関わり方

- 1 点目 既存プログラムの活用とその組み合わせ
みんなでトーク、ゆうゆうびとバンクなど
- 2 点目 専門家を地域に派遣
図書館司書、学芸員 など
- 3 点目 当日参加できなかった人のフォロー
FMラジオ、オンデマンド講座 など

■老上学区の取組

紙芝居、カレンダー、カルタの3委員会設置

◆「始まりのセミナー」

豊郷町や大阪の上町台地でのまちおこしに携わるデザイナー兼まちづくりの実践者がまちづくりにおけるデザインについて講演

参加者の主な意見

- ・対象者の絞りこみや、成果物の活用などを考える機会となった

◆「歴史講座」「紙芝居講座」→紙芝居

専門家として図書館司書を派遣

子育てにおける絵本や紙芝居の有用性を学ぶ

老上の昔話の紙芝居+マスコットキャラクター「おいかめちゃん」秘話

子どもたちが制作

- ◇ まちづくりセンター利用機会の少ない子育て世代の保護者と次世代を担う子どもたちが、地域を知り、地域に関わるきっかけとし、次の活動への仲間づくりに繋げる

◆「写真講座」→カレンダー

写真講座で地域の写真を撮影

地域の方が撮影した地域の写真を募集、地域の良さを再発見

地域の行事などについて関心を持たせるような仕掛けを検討中

◆「防災講座」→防災カルタ

南草津駅周辺マンション群を含む流入人口の多い地域

地域との関わりがない住民が多い

防災を学び、防災に関わる読み札を広く募集

- ◇ 参加者が防災の学びを深めるだけに終わらず、子どもたちがカルタ遊びを通して防災の知識を身に着け、遊びを通して覚えた読み札を家庭で口にするすることで、家族にも防災の知識が広がり、有事の際には、読み札の絵や写真、文言を思い出すことで、身を守れるようにという狙い

3) (仮称)みらくるカレッジの進め方について

パイロットモデルの課題等→(仮称)「みらくるカレッジ」本校機能整備

- ◇ 既存の行政プログラムを組み合わせ
 - ・ 庁内各課、関係機関で、似たようなプログラムの実施
 - ・ 足りないプログラム
- ◇ 「みらくるカレッジ」の仕組みを整備することは困難
- ◇ 身近な地域課題を解決するための学びとして、本校の一部
→ 地域に持ち帰る形での進め方を検討

オンデマンドで完結する講座も検討

【委員長】

従前の講座は、趣味教養的なものが大部分で、体系的に行われているものではなかった。講座が自分たちの問題解決につながらないのではいけない。地域課題に対し、応えていけるようなカリキュラムを設定し、講座を組み立て、地域を担う人材を作っていく。前期の社会教育委員会議において、「くさつの未来をつくるカレッジ『みらくるカレッジ』」という構想を提案したが、これがなかなか進まない。今年度は、パイロットモデルとして一部分でも進めようとしている。今日は、地域での現状と課題をお話しいただく。

【老上学区まちづくり協議会 日下部事務局長】

地域課題をどのように講座に結び付けていくかは難しい。お金を出せばいくらでも専門的講師がいるが、まちづくりセンターがやる意味を考えなければ、どっちつかずの講座になってしまう。

パイロットモデルの3つの講座は全て、「がんばる地域応援交付金提案事業」であり、まちづくり協議会の組織の中で完結しては交付金事業の目的に合致しない。できるだけ多くの方が関わり、事業完了後もこれを契機として、まちづくりに興味を持ち、自分たちのまちをどうしたらいいか考えていく取組みでなければいけないと考え、地域の中で「老上みらい応援隊」というボランティアを募集し、既存組織に属さない方に3つの委員会の委員になっていただいた。従来より、年齢層がかなり若い方がたくさん関わり、個人的な関わりで来てくださる方も増えたように思う。これから事業が中盤に入っていくが、カルタの読み札やカレンダーの写真の募集など、できるだけ多くの地域の方にこの事業を知っていただき、自分たちのまちについて考えていただけるようにと考え、進めている。

【委員長】

ニーズをいかに把握するか、何をすればいいかということだが、「公共性のあること」＝「地域課題の解決」だとここでは強調している。それは、人が集まる講座ということではなく、数人でも、本当に必要な講座を考えることだと思う。

【P委員】

地域の公民館講座には、現役時代は考える余裕もなく、リタイアしてから参加したことがある。現役時代に社会貢献部門にいたため目が向いた。現役時代に目が向かな

ければ、リタイアしても向かない。非常に難しいと感じる。人と人のつながりをよく理解している人が知人をつなげる流用性が一番大事だと感じる。

【S委員】

地域課題解決は、各まちづくり協議会の中でも持っている。このように成果物が出て、これをきっかけとして社会活動にしていこうというのは、非常にいいことだと思う。他の地域にも情報共有を図りながら、広く知っていただいて、きっかけになってくれればと思う。

【L委員】

最初が手探りで一番大変だが、成功しても失敗してもいいと思う。成果物ができるとまた次につながる、新たな取組として、ぜひとも頑張っていたきたいと思う。

【M委員】

各種団体も後継者育成に悩んでいる。そういった中で働き方改革がどう作用してくるかという期待もある。経験も必要だが、これから先のまちづくりが高齢者のみでは難しい面もある。古いこと、新しいことがないまぜの中で、いい地域づくりがどうしたらできるのかと、やっぱり考えていく必要がある。

【G委員】

ニーズに合ったものをいかに発信するかと、まちづくりセンターに気軽に寄れる雰囲気づくりが一番大事だと思う。仕事上いろいろなまちづくりセンターに行くが、それぞれ雰囲気が違う。講座の中で子育て世代であったりお年寄りの方であったりが、集まりやすい雰囲気のまちづくりセンターをそれぞれ14学区で作っていくと、よりよい講座運営ができるのではないかと思う。

【R委員】

パイロットモデルは非常に素晴らしいと思うが、草津市にはいろいろな学区がある。マンション群を抱えている老上などと、例えば常盤などとは、地域の抱える課題が違おうと思う。「みらくるカレッジ」を今後どのように進めるかを考える上で、草津市における地域課題の差異をお互いに情報提供しあいながら、活性化していくという次のステップにいかなければいけないのではないかと思っている。

【J委員】

地域づくりに関わる前に、「おうみ未来塾」で1年半、地域プロデューサー養成講座で地域づくりについて勉強させていただいた。

何か関わりたいという意識があっても、自分の地元であっても、まちづくりセンターに行くきっかけがない。一般のサラリーマンは、定年まで待たないと、地域に出てくのは難しい。会長、副会長の人材づくりは大切だが、その次の副会長になっていく、50代の人が出やすい時間帯にまちづくりセンターに寄れる機会や、ちょっと知り合える機会、人脈づくりが大事だ。平日の昼間は難しい方にも講座を提供していただける「えふえむ草津」でのオンデマンドなどで、いろいろな地区でやったものが集約できれば、参加できなくてもその時のことがわかる。

【C委員】

老上と老上西の分離の際、地域は危機感を持っていた。老上はマンション群を含む学区となり、新しい地域を担う人がいない。その危機感が事業の誘因となったのではないかと思う。一年交代は、平等で、納得していただける点ではいいと思うが、やはり経年やらないと難しい。続けることで見えてくるものがあり、発信できる。2年あるいは3年継続するシステムを構築することが、まちづくりにとっても重要であり、そのための仕組みを作っていないといけないと感じる。

【M委員】

1年目は副会長をやって次の年は会長をやるというのは、勤務先の仕組みでかなりやってきた。町内会などは、1年目は、前年にやっていたことの繰り返しの過ぎない。2年目になって初めて、自分の考えを反映するようになる。C委員がおっしゃる通りだと感じた。

【副委員長】

正直、自治会、社協、民生委員など既成の団体だけが中心になって動いている。一生懸命やるが、もたないのは目に見えている。新しく活動を担っていく人たちが出てこないといけないが、何も無いところには出てこない。「みらくるカレッジ」のような講座は、そうした人たちを集めてくる求心力を持ったもの、地域課題の解決と同時に、従来の規制の中では発見できなかった人材を吸収する一つの力になり、人が連なっていく場づくりにもなるのではないか。リタイアされ、地域で行き場がない方が、地域の中で活動できる高齢者対策が必要ではないか。若い新しい人たちを集めると同時に、様々な経験のある人たちが地域の中で活動できる、自分の興味に沿って活動できる場所づくりになっていくと、地域を変えていける力になるのではないかと思う。

【委員長】

何十年もたった地域の団体組織体制は、10年20年後は保てない。例えば、児童見守り隊をとっても、PTA、子供会、青少年育成市民会議、町内会、ボランティア、交通安全協会など様々な組織でやっているが、それぞれ担い手がいない。それならば、一つになればいいが、それぞれ思惑があり、再編が進まない。人とお金は少なくなっていく中で、団体、組織といった体制そのものを再編していかなければ、日本という国がもたない時代がくると思う。それに対して、いち早く改革を打ち出せるかどうか、その自治体が生き残る道であり、社会教育の立場から何ができるかということが、「みらくるカレッジ」の大前提にある。地域には様々な課題があり、地域によって優先度がある。今回の老上の取組は、成果物の制作で終わってはいけない。地域の歴史も地理も知らず、つながりもない新しく来た人たちが、どうしたら地域を知り、つながってもらえるかというストーリーを考えずに、成果物だけをクローアズアップしても意味がないことになってしまう。今後、パイロットモデルを進める上で、いかにストーリー性をもって展開していくかを念頭に置いてカリキュラム再編をしていただきたい。

4. その他

- ・ 各種審議会等への委員依頼について
- ・ 滋賀県社会教育委員連絡協議会への意見提出について
- ・ 今年度スケジュールについて

5. 閉会
